

デジタル田園都市国家構想交付金事業評価シート

	担当課名	社会教育課	事業No.	4				
事業名	「阿波藍」を活用した観光交流資源魅力化プロジェクト【地方創生拠点整備タイプ】							
目的	藍染め普及事業、阿波藍復興事業の中核施設として、地域おこし協力隊による藍関連技術者の養成拠点とするとともにすくも製造工程の見学や藍染め体験等の体験型観光が実施できる「(仮称)勝瑞藍工房本館」【現:あいずみ藍工房本館】を新築する。							
実施内容	藍染め普及支援として次の事業を実施。 1) 敷地造成(効果促進事業) 2) 本館整備(施設整備事業) 3) 駐車場整備(効果促進事業)							
重要業績評価指標(KPI)	指標		開始前	2020	2021	2022	2023	2024
	販売額 (単位:千円)	目標		0	1,250	2,000	2,750	3,500
		実績	0	0	0	458	675	1,141
	すくも生産量 (単位:kg)	目標		1,700	2,200	2,700	3,200	3,700
		実績	1,400	1,700	1,792	2,000	1,960	2,000
	交流人口 (単位:人)	目標		0	2,400	2,800	3,200	3,600
実績		0	0	765	264	540	1,673	
達成度	A:達成		B:概ね達成		C:未達成			

【事業費と財源内訳】

(単位:円)

2024年度	計画額	実績額	交付金充当額	備考
事業費				2020年度施設整備完了

【2024年度の取組と課題】

あいずみ藍工房を拠点として、町内の畑において藍の栽培を行い、同施設において薬の製造作業を実施した。また、製造した薬を利用して藍染めの技術向上に努め、同施設において、目標である藍染料の製造から藍染製品の制作までの技術を習得した人材育成を進めた。2024年度においては、2名の地域おこし協力隊の任期が満了となり、他地域で起業した。人材は育成しているものの、他地域への流出が多く、本町での藍産業の振興に繋がっていないことが課題である。

【今後の取組】

藍住町内における藍産業の振興を目標として事業を進める。
 地域の活性化を進めるにおいて、産業観光の観点も重要であると思われ、文化観光の拠点である藍住町歴史館「藍の館」との連携を進める。
 町内の小中学生に、藍染体験だけではなく、葉藍の栽培から薬の製造までを体験を通して学ぶ機会を構築していく。

※藍住町総合計画・総合戦略推進委員会の意見

- ・協力隊を受け入れるだけでなく、任期後の定着や活躍の場づくりまでを含めた人材政策として考えていかないと、なかなか「担い手の確保」には結びつかない。人材の育成から定着までを見据えた施策を推進していただきたい。
- ・地域おこし協力隊の他地域への流出については、課題や原因の把握に努め、定住してもらえるような取組を進めていただきたい。
- ・KPIがすべて未達成となっているため、KPIの設定についてはもっと検討が必要である。